

既存アンケートの整理

第4期豊岡市障害福祉計画で実施したアンケート結果から、障害者施策に関連する以下の点について整理を行いました。

1. 調査概要

(1) 調査の目的

第4期豊岡市障害福祉計画の策定にあたり、障害者（児）の日常生活の状況や障害福祉サービスの利用状況・利用意向など、その実態を把握するために実施しました。

(2) 調査対象者

障害者手帳所持者のうち、その圧倒的多くが65歳以上の身体障害者手帳所持者となっているため、療育手帳所持者、精神障害者、身体障害者の65歳未満の方については原則全数調査としました。65歳以上の身体障害者手帳所持者のみ抽出率5%とすることで、65歳未満の方の意見をより多く収集するよう努めました。

(3) 調査期間及び調査基準日

平成26年8月6日～8月22日

(4) 調査方法

郵送による配布・回収

(5) 回収結果

対 象	対象者数 (票)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
①18歳未満	316	141	44.6
②18歳以上	1,749	923	52.8
計	2,065	1,064	51.5

2. 障害者施策に関連する当事者の意向について

(1) 権利擁護について

■60%前後が差別や嫌な思いを、学校、職場、住んでいる地域、外出先などで経験

障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある人（「ある」「少しある」を含めた割合）は、障害児では57%、身体障害者では45%、知的障害者では53%、精神障害者では66%となっており、高齢者を除いて多くなっています。

差別や嫌な思いをした場所は、障害児と知的障害者では「学校・職場」が最も多く、精神障害者と高齢者では「住んでいる地域」が最も多くなっています。次いでいずれの障害者も「外出先」が多くなっています。

■10%前後が、家族・親戚や施設の職員などから虐待を経験

家族や施設の職員などから虐待を受けたことがあるかについては、「ある」「疑いがある」を含めて、障害児では7.8%、身体障害者では4.2%、知的障害者では12.0%、精神障害者では16.2%、高齢者では2.0%となっています。

誰から虐待を受けたかについては、障害児及び身体障害者では「家族・親戚」が50%以上、知的障害者では「施設の職員」が50%強、精神障害者では「家族・親戚」及び「施設の職員」が50%弱で、最も多くなっています。高齢者では2人ともすべて「家族・親戚」となっています。

虐待の内容については、いずれの障害者も「怒鳴ったり、ののしったり、無視されたりした」が最も多く、次いで「顔や体をなぐられたり、けられたりした」が多くなっています。

(2) 災害時の避難等について

■災害時に一人で避難できない人が多い

火事や地震等の災害時に一人で避難できるかについては、障害児、知的障害者、高齢者では「できない」が最も多く、それぞれ65%、47%、47%となっています。一方、身体障害者の50%が「できる」と回答しています。

家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人がいるかどうかについて、障害児、知的障害者で約30%、精神障害者では40%強の方が「いない」と答えています。一方、身体障害者及び高齢者では約30%の方が「いる」と回答しています。

火事や地震等の災害時に困ることは、障害児、知的障害者、高齢者では「安全なところまで、迅速に避難することができない」、身体障害者では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」、精神障害者では「投薬や治療が受けられない」が最も多くなっています。

(3) 相談相手について

■最も多い相談先は「家族や親せき」、次いで友人・知人、学校やグループホーム・施設、医療機関など

困った時の相談先については、「家族や親せき」が最も多く、次いで障害児では「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」、身体障害者では「友人・知人」、知的障害者では「グループホームや施設の指導員など」、精神障害者及び高齢者では「かかりつけの医師や看護師」が多くなっています。

障害福祉に関する情報の入手先について、障害児及び知的障害者、高齢者で「家族や親せき、友人・知人」が最も多く、身体障害者では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」、精神障害者では「かかりつけの医師や看護師」が最も多くなっています。次いで障害児では「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」、身体障害者では「行政機関の広報紙」、知的障害者では「サービス事業所の人や施設職員」、精神障害者では「家族や親せき、友人・知人」、高齢者では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」などとなっています。

(4) 住まいや暮らしについて

■現在は家族と暮らしているが、将来は一人で、あるいはグループホームなど多様化

現在は家族と暮らしている人がほとんどです。将来は、一人で暮らしたい人（特に精神障害者）やグループホームで暮らしたい人（特に知的障害者）、福祉施設で暮らしたい人（特に知的障害者、高齢者）など多様なニーズがあります。

地域で生活するためにあればよい支援として、「経済的な負担の軽減」や「家族の理解と協力」を多くの人が挙げています。障害児では「地域住民等の理解」も多く 60%強となっています。